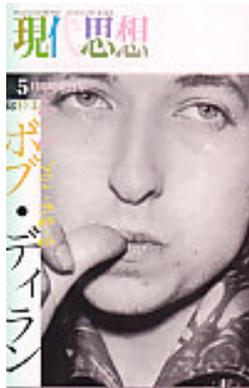


研究者総覧：長畑 明利 (NAGAHATA, Akitoshi)

氏名	長畑 明利 (NAGAHATA, Akitoshi)	
職名	教授	
所属講座	英語高度専門職業人コース	
学位（専攻分野）	修士（文学）・東京外国語大学	
メールアドレス	e43479a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~nagahata/	
研究分野	アメリカ文学	
	アメリカ詩	
	文学における多文化社会の表象	
現在の研究テーマ	エズラ・パウンドとモダニズム詩	
所属学会	日本アメリカ文学会	
	日本英文学会	
	Modern Language Association	
主要著書・論文	『語り明かすアメリカ古典文学 12』（共著、アメリカ文学の古典を読む会編、南雲堂、2007）	
	『アメリカ文化史入門』（共著、亀井俊介編、昭和堂、2006）	
	『異郷の身体——テレサ・ハッキョン・チャをめぐる』（共著、池内靖子・西成彦編、人文書院、2006）	
	『記憶の宿る場所——エズラ・パウンドと 20 世紀の詩』（共著、土岐恒二・児玉実英監修、思潮社、2005）	
	『アメリカン・モダニズム——パウンド、エリオット、ステイブンス、ウィリアムズ』（共著、富山英俊編、せりか書房、2002）	
自己紹介文	<p>専門はアメリカ文学です。モダニズム以後のアメリカ詩を中心に、文学テキストに見られる言語的特徴や、詩人・小説家の「言葉」についての考えを明らかにし、それらが持つ意味について検討する作業を進めています。これに加え、アジア系、アフリカ系など人種・エスニシティに基づく文学・文化研究や、ポピュラー・カルチャーの研究も手がけています。英語高度専門職業人コースでは、「国際多元文化特殊講義 I」（「アメリカ現</p>	 <p>いまでも人気のボブ・ディラン</p>

	<p>代文化論」と合併授業)と「言語表現技術演習」担当していますが、後者の内容を簡単に紹介しますと、前期には、インターネット上の新聞・雑誌、ニュース番組などを用いて、読解、作文、聞き取り、発表などの練習を行い、高度な実践的英語力を培います。後期には、主として英語圏のモダニズムについて、留学生とともに英語で学びます。大学院授業ではありませんが、学部1、2年生対象の英語授業も担当しています。そこでは、様々な工夫を凝らして、受講者の読む、書く、聴く、話す力を伸ばすことに努めています。中学生の頃からボブ・ディランをはじめとする洋楽を聴いていたため、しばしば、少し古めの歌を教材として使っています。(洋曲の古典なのですが、なぜか学生の皆さんには不評です。)</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>英語高度専門職業人コースを受験しようかと考えている人の中には、英語の学習が好きであったり、得意であったり、英語の力をつけたいと思っている人が多いと思います。自分の英語の力はまだまだなので、もっと伸ばしたいと思っている人もいます。すでにある程度高い英語の力をさらに伸ばしてみたいと考えている人もいます。英語にせよ、他の外国語にせよ、使わないと、あるいは勉強しないと、力は落ちていくものです。英語の力を維持するために、さらに伸ばすために、皆さんはどのようなことをしていますか。英語の小説を読んだり、英字新聞や雑誌を読んだり、英語のニュースを聞いたり、映画やテレビ番組を日本語字幕に頼らずに観たりすることは効果があると思います。そうした学習をすでに1人でやっておられる人も多いでしょうが、大学という場で、自分の関心領域について研究しながら、仲間とともに英語を学習することも有益だと思います。そこには、母語話者の授業をはじめ、英語を使う環境がありますし、授業で宿題が課される環境に身を置けば、自分を甘やかすこともできません。学習時間も増え、学習の集中度も高まることでしょう。何よりも、教員を含め、大学には面白い人がたくさんいます。そうした学びのコミュニティーの一員になって、世界を少し広げてみませんか。</p> <div data-bbox="949 824 1321 1099" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="949 1108 1321 1167">たまにはパーティーもあり。ふだんはまじめに研究しています。</p>